

会津地域の観光ブルーベリー園に適する品種

福島県農業総合センター 会津地域研究所

部門名 果樹－その他－品種

担当者 斎藤祐一・増子俊明・野上紀恵

I 新技術の解説

1 要旨

従来積雪寒冷地で導入が少なかった南部ハイブッシュ系と、ラビットアイ系および北部ハイブッシュ系の比較的新しい品種31品種について、2年生～8年生まで品種比較試験を行い品種特性を明らかにするとともに、収量、収穫時期、品質等から、会津地域における観光ブルーベリー園に適する有望な品種を選抜した。

(1) 収穫期は、南部ハイブッシュ系および北部ハイブッシュ系が6月下旬～8月中旬、ラビットアイ系が8月上旬～9月上旬である(表1)。

(2) 収量は、北部ハイブッシュ系および南部ハイブッシュ系がラビットアイ系より多い。ラビットアイ系は、樹勢が強く樹体生育が旺盛であるが、着果量が少ない(表1)。南部ハイブッシュ系のマグノリア、北部ハイブッシュ系の、ブリジッタ、ネルソンは樹勢が強く、収量も多いことから栽培しやすい品種と考えられる。

(3) 会津地域の観光ブルーベリー園に導入する品種は、南部ハイブッシュ系ではシャープブルー、マグノリア、サンシャインブルーが「有望」、北部ハイブッシュ系ではネルソン、ブリジッタが「有望」、サンライズ、ダロウ、ブルーゴールド、チャンドラー、エリオットが「やや有望」、ラビットアイ系ではオースチン、パウダーブルーが「有望」、T-100が「やや有望」である(表1)。

(4) 観光ブルーベリー園(30a)を開園する際の導入品種の組合せ例として、子供の夏休み期間の利用を想定した品種構成(A)と、開園期間を長めにとり、ブルーベリーを嗜好する若者や熟年者の利用を想定した品種構成(B)を示す(表2)。試験結果をもとに1日毎の収穫量を推定すると、(A)はハイブッシュ系を中心に導入したため7月中下旬が収穫のピークとなり、(B)は無加温ハウス栽培とラビットアイブルーベリーの晩生品種パウダーブルーを導入したため収穫期間が長くなり、7月中下旬と8月中旬が収穫のピークとなる(図2)。

2 期待される効果

(1) 観光ブルーベリー園の開園計画において、導入する品種構成の検討に活用できる。

(2) 選抜された有望品種の導入により、ブルーベリー園の開園期間が拡大され集客力の向上が期待される。

3 適用範囲

会津を中心とした県内の平坦地

4 普及上の留意点

(1) ラビットアイ系の一部の品種では、冬季の枝枯れ症状がみられるため、標高の高い地域や寒害を受けやすい地域では植栽しない。

(2) サンシャインブルー等の樹冠が小さい品種やラビットアイ系等の樹冠が大きい品種があるため、適切な植栽距離で植え付ける。

II 具体的データ等

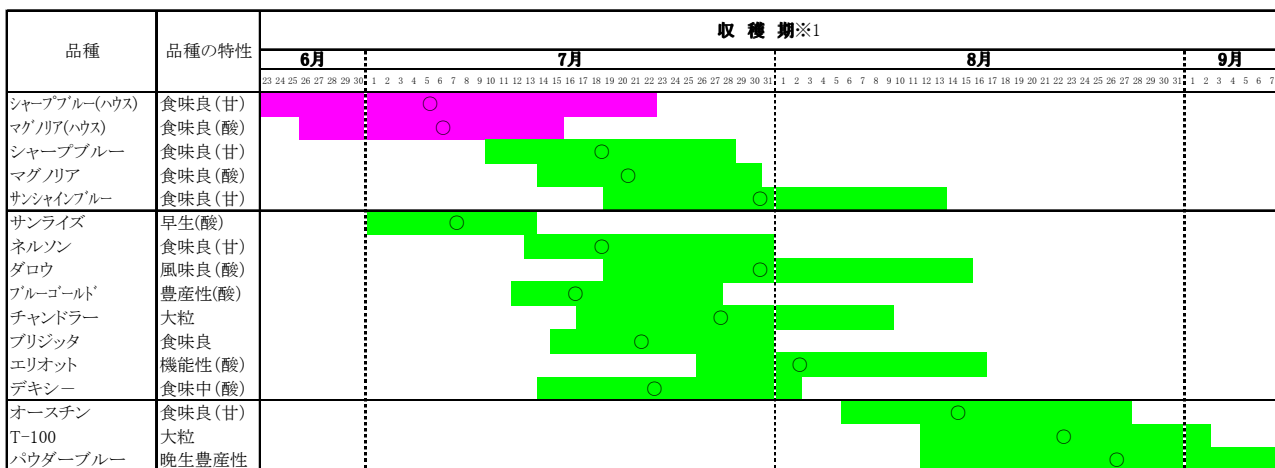
表1 品種別収量、果実品質の特徴、有望度

種類	品種	08~'10 収穫果の果実品質※1					有望度 ※3	概評
		平均収量 (kg/樹)	裂果率 (%)	一粒重 (g)	RM 示度	酸含量 (%)※2		
南部ハイ ブッシュ	オニール	3.5	18.4	2.3	11.8	0.28	×	早生だが、裂果が多い。
	シャープブルー	2.6	5.4	1.9	12.7	0.49	◎	甘く食味が優れる。
	マグノリア	3.3	0.2	2.4	12.0	0.81	◎	酸味強いが、食味優れる。
	サンシャインブルー	2.7	3.6	1.8	12.3	0.50	◎	甘く食味が優れる。樹冠が小さい。
北部ハイ ブッシュ	スパータン	0.2	0.7	1.8	11.6	0.74	×	生育不良がみられる。
	サンライズ	2.6	0.0	2.2	11.6	0.80	○	酸味強く、食味中位。収穫しやすい。
	ネルソン	4.6	3.9	2.5	12.8	0.68	◎	風味良く、食味が優れる。
	ダロウ	2.7	2.0	2.0	12.5	0.78	◎	酸味強い。一部で樹勢低下みられる。
	ブルーゴールド'	5.2	0.0	2.3	10.8	0.92	○	酸味強く、豊産性である。
	チャンドラー	4.2	0.4	3.7	11.1	0.70	○	一粒重が大きく、食味中位。
	ブリジッタ	4.2	0.4	2.7	12.3	0.78	◎	味が濃厚で、食味が優れる。
	エリオット	0.5	3.2	1.3	12.4	1.42	◎	アントシアン含量が高い。
ラビットアイ	オースチン	3.5	8.9	2.3	16.0	0.39	◎	甘く、食味が優れる。
	ティフブルー	2.0	26.1	1.4	15.6	0.55	×	裂果率が高く食味はやや劣る。
	バルドウィン	2.0	4.2	2.0	15.6	0.50	×	枝枯れが多く、年により減収となった。
	T-100	2.0	3.0	2.3	15.0	0.45	○	一粒重が大きく、食味中位である。
対照(北 部ハイブッシュ)	パウダーブルー	4.4	7.5	1.9	15.4	0.41	◎	完熟果を収穫すること。
	アーリーブルー	1.7	2.2	1.8	12.7	0.33	△	一部で樹勢衰弱がみられる。
	ブルークロップ	0.8	0.5	1.7	11.9	0.63	△	味が薄く、食味が劣る。
	デキシー	2.3	1.2	1.8	12.1	0.95	△	酸味強いが食味中位である。

※1 収穫期、果実品質データは、2006年~2010年の平均値。*品種のデータは2006年~2009年の平均値。

※2 酸含量は1/10N NaOHで滴定し、クエン酸に換算した。

※3 有望度: 会津地域の観光ブルーベリー園に導入する観点からの総合評価 ◎有望、○やや有望、△やや劣る、×劣る



※1 収穫期は始、10%収穫した日、盛、50%収穫した日、終、90%収穫した日とし横棒グラフで示した。また、2006年~2010年の5カ年の平均値である。○は収穫盛。

図1 有望品種の収穫時期

表2 有望品種の組合せ例

品種	品種構成例(%)※1	
	A	B
シャープブルー(ハウス)		10
マグノリア(ハウス)		5
シャープブルー	5	5
マグノリア		3
サンシャインブルー	15	10
サンライズ		5
ネルソン		5
ダロウ	15	7
ブルーゴールド'		3
チャンドラー	15	2
ブリジッタ	20	5
エリオット	10	5
デキシー	10	
オースチン	10	20
T-100		5
パウダーブルー		10
合計	100	100

※1A: 味や外観等生食中心での利用、夏休み前半の需要を重視。
B: 味や外観等生食に加えて、ジャム等加工用向け品種も選択。
開園期間長く、8月中旬以降の需要にも対応できる。

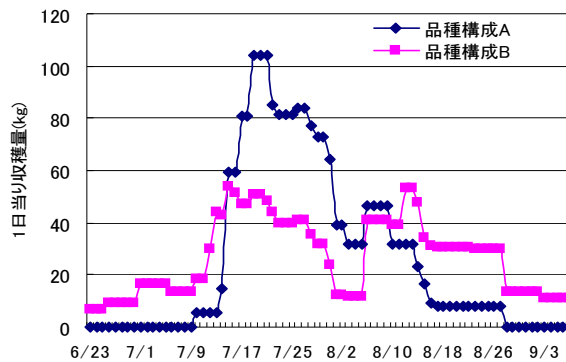


図2 想定される収量の推移(30a、250本/10a植) 品種構成A、Bは表2の組合せによる。

III その他

1 執筆者

斎藤祐一

2 研究課題名

(1) 会津地方に適したベリー類の栽培特性の研究

3 主な参考文献・資料

(1) センター試験成績概要(H18~H22)、参考成果(H19、H21)